

5 安全教育の確実な実施のために

1 安全学習

「教科等における安全学習」は、自分や他者の安全を守るためのより良い行動などをじっくりと考えさせ、深め、追究させる学習活動である。

安全学習では、日常的・定期的な安全指導において指導された「必ず指導する基本的事項」と関連させて、児童・生徒等が危険を予測し回避するために必要な思考力や判断力を高め、適切な意思決定や行動選択ができるようにすることが大切である。

[実施の場と時間]

【教科等における安全学習】

各教科・科目、総合的な学習(探究)の時間、特別活動(学級活動・ホームルーム活動、学校行事等)等

(1) 教科等の安全に関する内容を把握する

安全学習を確実に実施するには、教科等における安全に関する内容について、学習指導要領から把握することが必要である。

(例) 「災害安全」に関する内容

小学校学習指導要領 (平成 29 年 3 月) 第 2 章 第 2 節 社会 第 2 各学年の目標及び内容 [第 4 学年]

2 内容 (3)

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

(ア) 地域の関係機関や人々は、自然災害に対し、様々な協力をして対処してきたことや、今後想定される災害に対し、様々な備えをしていることを理解すること。

(イ) 聞き取り調査をしたり地図や年表などの資料で調べたりして、まとめること。

イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

(ア) 過去に発生した地域の自然災害、関係機関の協力などに着目して、災害から人々を守る活動を捉え、その働きを考え、表現すること。

中学校学習指導要領 (平成 29 年 3 月) 第 2 章 第 7 節 保健体育 第 2 各学年の目標及び内容 [保健分野]

2 内容 (3)

ア 傷害の防止について理解を深めるとともに、応急手当をすること。

(ウ) 自然災害による傷害は、災害発生時だけでなく、二次災害によっても生じること。また、自然災害による傷害の多くは、災害に備えておくこと、安全に避難することによって防止できること。

高等学校学習指導要領 (平成 30 年 3 月) 第 2 章 第 5 節 理科 第 2 款 各科目

第 1 科学と人間生活 2 内容 (2) ア

(エ) 宇宙や地球の科学

① 自然景観と自然災害

自然景観と自然災害に関する観察、実験などを行い、身近な自然景観の成り立ちと自然災害について、人間生活と関連付けて理解すること。

第 8 地学基礎 3 内容の取扱い (2) イ

(前略) ①の「恩恵や災害」については、日本に見られる気象現象、地震や火山活動など特徴的な現象を扱うこと。また、自然災害の予測や防災にも触れること。

なお、各校種の学習指導要領に掲載してある「防災を含む安全に関する教育」(現在のな諸課題に関する教科等横断的な教育内容等)を一覧にした資料を、東京都教育委員会ホームページに掲載しているので、参照されたい。(P.104 を参照)

(2) 育てたい資質・能力を明確にする

各学校においては、安全教育の目標を踏まえ、学校、地域の実態及び児童・生徒等の発達の段階を考慮して、育てたい資質・能力を明確にした上で、学校の特色を生かした目標や指導の重点を設定し、計画的に取り組むことが重要である。

また、育てたい資質・能力を育てるためには、「主体的・対話的で深い学び」の視点を踏まえ、体験的な活動や、身近な生活と関連させた調査などを重視した学習活動の工夫が求められる。

(3) 関係機関と連携する

安全学習においては、専門的な知識をもつ警視庁や東京消防庁、自治体の防災担当部署等の関係機関と連携し、児童・生徒等がより実践的に学習できるようにする。

その際、教員が主体となって授業を行い、外部講師からは専門的な助言をもらう形で指導計画を立てることが大切である。

(4) 授業等を考えるときの確認事項を決める

例えば、次のような視点で確認するように項目を決めておくとよい。

- 教科等の目標、教科等の学び方の特性を踏まえた学習になっているか。
- 地域の特徴に応じた事例等を扱い、実感がもてる内容になっているか。
- 単元（題材）を通して安全教育の視点で学ぶ内容にするか。
 - ・ 指導計画の中で、特定の時間において安全教育の視点で学ぶ内容にするか。
 - ・ 1 単位時間の中で、安全教育の視点で学ぶ内容にするか。
- 「安全教育プログラム」、「防災ノート～災害と安全～」、「東京マイ・タイムライン」等が活用できるか。
- 幼児・児童・生徒が学んだことを生かし、実際に行動に移すことを考えられる内容になっているか。

また、下記に、「安全教育プログラム」に掲載している実践事例より「安全教育の視点」、「教材化の視点」、「安全教育の視点に立った留意点」について一例として示す。

実践編

生活安全② 危険な場所を理解し、児童が安全に生活するための意識を高める学習事例

小学校 第3学年（総合的な学習の時間）

単元（題材）について

1 題材名 地域安全マップを作ろう

2 安全教育上の目標

【1-4 職業や社会生活での安全】
 地域・社会で起る犯罪や危険について理解し、安全に行動できるようにする。
 内容 一人で行ってはいけない場所を確認すること。(1-5-①)
 人通りの少ない道や街路灯の少ない場所など「入りやすく、見えにくい」場所を確認すること。(1-5-②)
 「子供110番の家」の場所を確認すること。(1-5-④)

3 教材化の視点

大きな通りは、人通りも多く道路も整備され、安全性が高いと言えるが、裏道は人通りが少なく、道幅が細く、見通しが悪いところもある。
 本単元では、児童が安心して生活できるようにするために、児童に「危険な場所」について理解させるとともに、安全は自分たちでつづけていくものであるという意識をもたせ、主体的に社会の一員として生活する力を身に付けさせる。

指導計画（26時間扱い）

時間	主な学習活動	安全教育の視点に立った留意点
1～12	○危険な場所とは、どのような場所なのかを考える。 ○調査に行く場所を決める。 ○1日目のフィールドワークを行い、危険な場所を調べる。 ○調査の結果から地域安全マップを作る。	○デジタル教材を活用し、映像で危険な場所を確認する。 ○事前準備として、どのような場所が危険か予想させる。
13～20（本時）	○「安全な場所」と「危険な場所」の違いを考え、危険な場所の原因をまとめる。 ○自分たちで決めた方法で、「安全な街づくり」の活動に取り組む。	○危険な場所の原因を取り除くためにできることを考えさせる。 ○全員が自分の考えをもち、発信できるようにする。
21～26	○これまでの活動を振り返りたいか決める。 ○いつ、どのような方法で広められるか考え、発信する。	○誰に知らせると地域の安全につながるか、考えさせる。

指導の工夫
 マンダラチャートやKJ法などの思考ツールを用いる。

【目標】
 安全に関する目標と内容を示す。
 「必ず指導する基本的事項」で該当する内容を示す。「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「学びに向かう力、人間性等」などを記述すると、育てたい資質・能力が明確になる。

【教材化の視点】
 目標を達成するための学習活動や具体的な工夫等について記述する。
 教科等の特質に応じ、関連する内容について示すことも考えられる。

【安全教育の視点に立った留意点】
 各時間における指導事項や、指導に当たって、留意すべき点を記述する。
 使用する教材・教具などを示しておくことも考えられる。

学校における安全教育とプログラム

安全教育で身に付ける力

安全教育の3領域

必ず指導する基本的事項

安全教育の確実な実施のために

安全教育の計画

安全教育の評価

安全教育の計画例

実践事例一覧

生活安全における実践事例

交通安全における実践事例

災害安全における実践事例

1声事例（校種別）